



横浜市医療安全メールマガジン

<臨時特別号>

anzenchan

平成 22年9月8日

□ □ □ 目次 □ □ □

医療安全情報 今話題の感染症について

1. アシネトバクターって何？
～標準予防策が大切！～
2. NDM-1産生多剤耐性菌について
～問診と感受性検査が重要です～

★ 医療安全情報 ★

今回は臨時特別号として、現在メディアで話題の

- アシネトバクター
- NDM-1産生多剤耐性菌

について、簡単に概要が理解できるように、情報提供いたします。

★★ 1. アシネトバクターって何？ ★★

帝京大学での集団感染が話題となった「アシネトバクター」とはどんな細菌なのでしょうか。

アシネトバクターは、土壌や水の中などの環境中に存在し、健常者の皮膚からも多く検出されるグラム陰性桿菌で、日和見感染の原因になります。

そのうち、アシネトバクター・バウマニという種類の感染例が、アシネトバクター感染例の約80%を占めます。

また、今回の集団感染のようにアシネトバクターが、広域-βラクタム薬、アミノ配糖体、フルオロキノロンの3系統の抗菌薬に広範囲の耐性を獲得し

た多剤耐性となると、非常に治療に難渋します。

厚生労働省のサーベイランスによると、医療機関で検出されたアシネトバクターのうち、多剤耐性を示すものの割合は、0.19～0.24%ほどです。

院内感染予防対策では、以下のことが重要です。

1. 手洗いなどの標準予防策
2. アシネトバクターは、暖かく湿っぽい環境を好むため、シンク、水周り、汚物室や人工呼吸器などの衛生管理は特に留意する
3. 多剤耐性アシネトバクターが検出された患者さんに対しては、標準予防策や接触感染予防対策、特に処置後の手洗いなどを徹底する

消毒薬では、アシネトバクターは通常、70%アルコールや50%以上の濃度のイソプロピルアルコール系消毒薬により死滅します。

◆参考リンク◆

☆「横浜市衛生研究所」アシネトバクター感染症について

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/acinetobacter1.html>

⇒アシネトバクターの名前の由来から過去の集団感染事例や予防法まで詳しく解説しています。おすすめです！

☆「多剤耐性アシネトバクター・バウマニ等

に関する院内感染対策の徹底について」（平成22年9月6日厚生労働省）

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/imuyakumu_jyouhou/data/imu/h22/i220906.pdf

⇒国からの通知の「別添2」にある、国立感染症研究所の荒川先生の解説がわかりやすいです。

☆「多剤耐性アシネトバクター・バウマニ等

に関する院内感染対策の徹底について」（平成21年1月23日厚生労働省）

○事務連絡

<http://www-bm.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/i-enzen/hourei/dl/090123-1.pdf>

⇒厚労省からの文書です。添付された下記の資料が役に立ちます。

○参考資料

<http://www-bm.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/i-enzen/hourei/dl/090123-2.pdf>

⇒アシネトバクターに限らず、セラチアなど、医療機関内におけるグラム陰性桿菌対策がまとめられています。

★★ 2. ニューデリー・メタロ-β-ラクタマーゼ1 (NDM-1)

産生多剤耐性菌について ★★

アシネトバクターとともに、NDM-1耐性菌も報道され話題になっています。

この耐性菌はカルバペネムを含むβ-ラクタム系抗菌薬とともに、フルオロページ(2)

キノロン系、アミノ配糖体系など広範囲の抗菌薬に多剤耐性を示します。

平成22年8月の「ランセット感染症」に掲載された論文によりますと、インド、パキスタンでNDM-1耐性腸内細菌が広まっており、そこで治療を受けてイギリスに帰国した患者に感染が確認されています。

この耐性は昨年、インドから帰国したスウェーデンの患者で初めて見つかりました。

同様の輸入例が、ベルギー、オーストラリア、米国でも確認されています。

日本でも9月になって、独協医大病院でインドへの渡航歴がある患者から初めて検出されました。

インド、パキスタンへの渡航歴、当地での治療歴のある患者では注意が必要と思われます。

NDM-1産生多剤耐性菌のその他の特徴や対応などを箇条書きします。

1. ヒトの腸管に定着しやすい大腸菌や肺炎桿菌によく見つかります。
2. 伝達性プラスミドにより媒介されている株もあり、拡散が危惧されます
3. インドでは主に、市中感染例から分離されています。
4. 検出された場合の対策は個室管理とし、標準予防策、接触感染予防策を徹底します。

急速に拡大する可能性があるため、問診等でインド・パキスタンでの入院歴、手術歴が明らかになった場合は、感受性検査の結果に注意する必要があります。

厚労省が国立感染症研究所の協力で作成した8月18日付の通知がわかりやすくまとまっていますのでご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dl/ndm-1.pdf>

※多剤耐性アシネトバクター・バウマニによる院内感染や、NDM-1産生多剤耐性菌が疑われた場合は、

○横浜市保健所医療安全課（TEL：671-2414）

でご相談を承ります。

